



カブキッズ たか



中町北小学校播州歌舞伎クラブ

ばんしゅうかぶき 播州歌舞伎



播州歌舞伎について調べてみよう。

播州歌舞伎は、^{げんろく}元禄（1688～1704）年間に、^{かさいしほうじょう}加西市北条で起こった^{たかむろ}高室歌舞伎（^{しば}芝居）の流れをくむ「^{のうそん}農村歌舞伎」です。高室の座は昭和12年頃にすべてなくなりましたが、^{ごろう}多可町中区の^{あらししざんいちざ}嵐獅山一座がその伝統を受け継いでいました。現在は、^{でんどう}多可町播州歌舞伎クラブやカブキッズたかが受け継いでいます。また、中町北小学校播州歌舞伎クラブは、平成29年に中町北小学校播州歌舞伎クラブ30周年記念公演を行いました。

播州歌舞伎のおもしろさ

長年、^{じゆんぎょう}地方を巡業し、^{たいしゆう}大衆とともに生きる中で^{きゃく}客の^{よう}要求を柔軟に取り入れ、^{しよさ}所作やせりふ、^{けしやうとう}化粧等のすべてに^{ついでいき}わり徹底的に^う客受けをねらった^{えんぎ}演技を追求しました。

「面白くなければ、明日は呼んでもらえない」という^{きび}厳しさの中で作り上げてきた芝居です。

— 播州歌舞伎ならではの面白さ —

- ① 大げさな所作（^{みぶ}身振り、^{てぶ}手振り、^{ろっぽう}穴法など）
- ② ^{ほうげん}方言やなまりを取り入れたせりふまわし
- ③ ^{つか}身近にあるものを使った^{えんしゆつ}演出



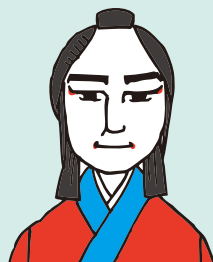
多可町播州歌舞伎クラブ



嵐獅山一座

嵐獅山一座の人の話

播州歌舞伎の開演は、たいてい仕事を終えた人々が集まってくる夜でした。収穫が終わった田んぼに組み立てられた仮設小屋の舞台は照明が十分ではなく、時には発電ランプのついた自転車を借り集めてきて、村の若い衆が一生命こぐ明かりの中で演じたこともありま



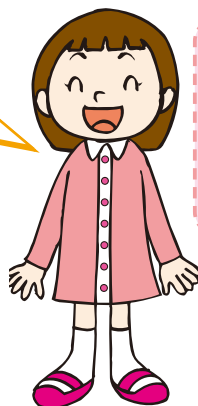
こと。このため、客席からよく見えるように化粧を厚くし、派手な所作で、小屋の隅々まで聞こえるように大きな声で演じました。

また、一回や二回きられたぐらいでは死なず、何度も何度も起き上がり、お客さんから「よし、ようやった、もうそれくらいでええ」という拍手がもらえるまで、髪を振り乱し必死に立ち向かっていったのです。



多可町播州歌舞伎クラブが活動しているんだって。見学に行こう。

播州歌舞伎について調べると、歴史や特徴がよくわかるね。



播州歌舞伎を大切に守っていくために、わたしたちはどんなことができるでしょう。